

田辺市総合計画審議会

第1回分科会

(地域コミュニティ再構築)

会議録

## 田辺市総合計画審議会第1回分科会（地域コミュニティ再構築）会議録

日 時	令和3年7月23日（金・祝）午後1時30分～午後4時
場 所	市役所本庁3階 第一会議室
出席委員	9名
欠席委員	なし
傍聴者	なし
会議事項	1. 開会 2. 座長紹介 3. 議事 (1) 現状の地域コミュニティについてどう思うか (2) 理想の地域コミュニティ像について 4. 閉会

### 1. 開会

### 2. 座長紹介（事務局から説明）

### 3. 議事

#### (1) 現状の地域コミュニティについてどう思うか

(西川座長)

それでは、一旦2時間ということで3時半頃を目途に区切らせていただいて、もし議論が盛り上がり、時間延長のご要望があれば随時延長します。皆様のご都合もありますので、延長以降は、ご退席いただいても構いません。繰り返しになりますが、一旦3時半で考えさせていただきますので、ご協力よろしくお願いします。今日はそれぞれのテーマについて、十分にご議論いただき、先ほども申し上げたとおり、分科会として何かとりまとめるということは、あまり考えていません。後期基本計画にどのように落とし込むかという部分は、全体会で議論されますし、そこに出すときに皆さんの今日の意見を座長と事務局で整理させていただいて、それをあげる形にしたいと思っています。本日、皆さんに一言一句決めていただくというようなことを要求するつもりはありませんので、皆さんの思いを吐露していただいて、まとめる材料をたくさんいただきたいと考えています。前回、出席しましたが、田辺市の総合計画審議会は全員で35人と非常に多く、全員に発言をいただくというのが難しい部分もありますので、この分科会では、できる限り皆さんからご発言をいただきたいと思っています。では、まず皆さんの自己紹介、できれば皆さんのバックボーンも含めた自己紹介とともに、まず現状の地域コミュニティについてどのようにお考えなのか、ざっくばらんにお話いただくことを1巡させていただきます。このアンケートを踏まえて、役員さんのなり手が、まさにそのとおりの意見

でもいいですし、いやいやまた別の見方があるんですよとか、いや、うちのところ結構そうは言っても元気なんですとか、そんな事例紹介もいただければありがたいと思います。

(A委員)

自治連の方から参加していますAです。よろしくお願いします。私は西の端の松原から来ていますが、お宮さんがあって、子育てには最高のところだと思っています。子供が大事と思って15年間、小学校でボランティアもしています。現状の地域コミュニティについてどう思うかという、芳養はとてもいいところだと思っています。去年のコロナから地域が変わってきたと感じていて、若い人の警戒心がものすごく強くなったと思っています。お父さんお母さんは、働かなければならないからだと思いますが、それが2年ほど前から気になっています。それまでは学校へボランティアに行ったとき、子供らが喜んでるのに、参観日の後、参観が終わったら子供を連れ帰るようになりました。その辺すごく変わってきたと思って、すごく悩んでいます。よろしくお願いします。

(西川座長)

Aさん、ずっと芳養ですね。コロナの影響も出ていますか。

(A委員)

コロナからもものすごく変わってきたと思います。ただ、芳養の子供たちは最高の子供たちやと思います。

(西川座長)

働くときの現役世代も、昔であれば「仕方ない、仕事ちょっとおいて行きよしよ」という話が「いやいや、仕事は仕事でしょ」という感じなので、地域活動よりもまずは仕事という意識になっていると思います。

(B委員)

小学校は、何人いらっしゃるんですか。

(A委員)

今は290人程度だと思います。以前は、400人程度居ましたが、少子化で減ってきています。住むのは最高のまちだと思います。

(西川座長)

では、Bさんお願いします。

(B委員)

4年前に川崎市から中辺路町近露に移住して、宿をしておりますBと申します。よろしくお願ひします。地域コミュニティですが、私が住んでいる近露は皆さん子供を可愛がってくださる方ばかりで、移住して来られる方も多いです。自然環境が良く、熊野古道が通っているので、カフェやコーヒー屋さんで、移住して来られる方がいて、お子さんを連れてくると、地域のおじいさん達が保育園の見送りに来てくれたという話を聞きますので、コミュニティとしては、すごく良いと思っています。ただ、職業上、お客さんが東京などの都市部の方が多く、コロナがあつてからは、高齢者が多い地域なので、気兼ねなく地域の皆さんのところに伺うというのはできなくなりました。先ほどのアンケート結果でも、SNSへの関心が低いということが挙げられていましたが、もう少し市全体というか、地域としても、そういうのもあつた方がいいと思っています。例えば、今回の議論も年1回集中的にやるよりは、1ヶ月に1回とかずつと継続的にすべきことのような気がしています。中辺路行政局では、コロナでやっと一人に1台パソコンが導入されて、オンラインで本庁と会議ができるようになったという話も聞いたので、地域コミュニティ以前にまず、そういう仕事の仕方から浸透していくのがいいと思います。オンライン、というかSNSでいろんなお誘いとかもあつて、活用されている方も一定います。また、地域コミュニティの役割ですが、例えば、「秋津野」は地域コミュニティが株式会社まで発展して、みんなで儲けてそれを再投資してもっと儲けるようなところまでいっていると思います。小水力発電まで作られて、売電収入を地域の活動にも活用されています。農業をしているところは産地の力が大事なので、まとまりやすいんじゃないかと思っています。最近、観光も少しずつ産業になりつつありますが、まだみんなでというレベルまでいっていないと思っています。地域コミュニティの目的として、みんなでお金を稼ぐところまで行くべきなのかどうかを今考えています。

(西川座長)

たしかに、コロナは影響しそうですね。では、Cさんお願いします。

(C委員)

市民フォーラム田辺と申しまして、田辺市市民活動センターを運営させていただいてますCと申します。よろしくお願ひします。仕事は社会福祉協議会なので、地域の方を応援する立場で色んなところに顔を出させてもらってます。地域の現状で言うならば、子供会がどんどん無くなっていったとか、町内会に入らないとか、負の部分がたくさん見えてきますが、逆に頑張っている地域で言えば、例えば、防災というテーマを軸にして頑張っておられる方が、個々の家をまわって集まりを作ったり、有志の方が頑張れるところは人の繋がりが徐々にできているというところもあつたりします。中々、有志の方だけでは難しいので、社会福祉協議会が応援するという形で応援させてもらっていますが、動ける方を作るというのも大事だと思います。また後ほどよろしくお願ひします。

(西川座長)

パピリオンシティにある拠点は何でしたか。

(C委員)

「いおり」です。コロナで、時々休みにしましたが、今は開けています。無料休憩所なので、自由にお使いいただいています。時々、認知症の高齢者の集いとか、子供達の遊びの教室とかそういうイベントを実施して、来ていただいて交流を図るということをやっています。

(西川座長)

そこを開設してのビフォーアフターはいかがですか。約10年運営されていると思いますが、Cさんが関わってきた中で、変化を感じるころはありますか。来られる人の層やニーズみたいなのはありますか。

(C委員)

来られる方の変化と言えば、障害のある方が気軽に来られるようになったように思います。「いおり」を一つの居場所に感じておられるのか、相談支援ができるころなので、相談をいただくこともあります。継続的に認知症の高齢者の支援をする会や、色んなサークルさんが使っておられるので、「いおり」を軸に繋がりが広がっていると思います。

(西川座長)

では、Dさんお願いします。

(D委員)

よろしくをお願いします。地域おこし協力隊と書いてくれていますが、「元」です。2月いっぱい3年の任期が終わりまして、現在田辺市に住まわせてもらっています。現在、元々やっていたイベント事業などをやりながら、フリーランスとして働いています。中心市街地の東陽という住所に住んでいて、先ほどの資料を見ていて思いましたが、そもそも東陽という自治会はないのでしょうか。

(事務局)

東陽という地番はありますが、自治会は神田や東本町という形になっています。

(D委員)

今はご縁があってファミリーに住まわせてもらっていますが、そこまで地域のコミュニ

ティ、皆さんに比べて歴が浅く、実感のこもったことが言えるかどうかというところもあるかと思いますが、聞き流していただければと思うのですが、3年間の任期では、空家のマッチングや紀伊田辺駅前にある「tanabe en+」(タナベエンプラス)のコンセプトづくりに携わらせていただき、その中で、商店街の方や様々な事業者の方とやりとりする機会もいただきました。コミュニティへの参加がされていないという話は、田辺に限らず日本全国の話だと思いますが、Cさんのおっしゃったところにヒントがあると思います。一方で、今までの枠とは別のところに新たなコミュニティが生まれていると思います。それをどれだけ発掘するというか、広げていくべきなのか、それとも昔の地元のコミュニティが大事だから、そういうものをなくさないようにということになれば、限られた時間の中で強弱の付け方があると思いますので、関わり方の仕組みをどのように作っていくのかを考える時期に来ているのかと思います。30代・40代の方の加入率が低いのは、自分もそうですが、一番働き盛りの時期なので、どうしても優先順位が低くなってしまいがちで、ある程度仕方がない部分だと思っています。アンケートにもありましたが、約7割の人が地域活動に興味があるとの回答がありながら、加入が増えてないということは、現状の仕組みでは難しい部分があるということも読み取れたので、新しいコミュニティを作っていく、育てていくことも必要かもしれませんし、地域コミュニティのあり方を見つめ直すことが必要だと思っています。ただ、新しい取組を始めていくことはいいのですが、それが思いつきで増えて行って、行事が増える一方だと、それで疲れてしまうということを知ったことがあります。結果として足が遠のいてしまうこともあるのかと思いますので、新しいことを一つ始めるなら、古いことを一つやめてみるといった取捨選択が必要だと思っています。

(西川座長)

Dさんはどちらのご出身ですか。

(D委員)

兵庫県西宮です。西宮はサバサバしていて、あまりコミュニティを感じたことはないです。

(西川座長)

下町の方も同じですか。

(D委員)

震災で一度リセットされてしまったと思います。

(西川座長)

興味はあるが、受け皿がないという観点から言うと、自分が持っている仮説につながりそうな気がしています。地域コミュニティには、土地型コミュニティとテーマ型コミュニティ

がありますが、子育て世代や高齢者、同じ病気の方など、テーマ型のコミュニティは結構広がっていているので、その力を上手く土地型コミュニティと融合して、力を貸し借りできたらいいなと思っています。事務局で準備した資料に則してなくても構いませんので、思うところのご発言をいただければと思います。

(E委員)

田辺市民生児童委員協議会のEと申します。Cさんとは、日頃防災の関係でいろいろ協力いただいています。民生児童委員をやっていると、人が生まれてから死ぬまで、地域コミュニティそのものだと感じます。かれこれ、十数年、幼稚園で絵本の読み聞かせをやっていて、地域の人も巻き込んでやっていますが、そのことに価値があると思っています。やる側同士も交流できて、子供たちや園とも交流ができます。その中で、子供たちに求められることが非常に嬉しくて、帰るときにはすごい歓声でまた来てねと言ってくれるんですが、それが継続に繋がっています。また、幼稚園の菜園もやっていて、親子で来るので、お父さんやお母さんとも会うことができ、「今日は何を植えるんですか」、「じゃがいも美味しかったよ」とか、色んな声をかけてもらいます。そういったコミュニケーションが自然発生的にとれているということが、また次も続けよう、やめられないという状態につながっていて、いわゆる生き甲斐の一つになっていると考えています。また、折り紙ができる友人が2人いて、その人たちとある高齢者施設に通いました。そのとき、子供たちと顔合わせして、演技をやったり、子供たちが折り紙を覚えておばあちゃんに逆に教えるというシーンも作ったりしました。それともう一つ、一人暮らしで自分では逃げられない要支援者の高齢者に幼稚園児が訪問するという事など、様々なセッティングをさせてもらいました。もう一つ、私が実践してきたこととして、数十回位やったと思いますが、やすらぎ対策課が進めている高齢者の筋力トレーニングに携わらせていただきました。また、何とかお願いして、近所にある何十年も使われてない会館を綺麗に改修してもらいました。私は民生委員として、参加された高齢者一人一人が相談に乗って、地域に対する意識とか、うまくいかないことの悩みみたいところを聞かせてもらって、内容に合わせて処理していくという仕事をしています。このことがきっかけで接点ができたというところもあって、大変よかったなと思っています。これからもそうした高齢者が集まる機会を通じて、認知症や栄養など、学ぶことの大切さを伝えていきたいと考えています。若い人からは言いにくいことも、同じ高齢者として伝えることができると思っています。今日は、Cさんもこの場におられますが、今度、防災の話もそういった機会にやってもらいたいと考えています。いろんなことで、高齢になっても学ぶこと、家から外に出ることは大切で、そこにつなげることができれば、一つの成果があったかなと思います。もう一つ、現状の地域コミュニティについてどう思うかという、見直す時期が来ていると思います。なぜかという、いろいろな施策を打っても、地域住民に十分伝わってないことが多い、気持ちと気持ちで伝わってないと感じるからです。であれば、そういった活動の中で何でも話し合える関係性を構築して誘導していきながらボトム

アップ的な、必要とされているメニューを考えながらコミュニティを作っていくという形に視点を変えていただきたいと思います。今までの自治会や婦人会、子供会というのは地縁関係で集まっていて、何か人の役に立てばいいというところで、特別な目的を持ってないように思います。何のためそのことをやっているのか、参加者に具体的に分かってもらうことも大切だと思っていて、地域の事情とか必要性から生まれたということが見えるコミュニティの作り方が大事かなと思います。これからはスマホやパソコン、SNSやいろいろなグループの作り方があります。それもプラスアルファとして活用して行って、どんどん世代間を超えた形にもっていくことができれば言うことはありません。次を担う若い人たちに、我々からのアピールというか、思いを伝えながら活動としてお互いにコミュニケーションとっていく、こういうことが大事だと思います。我々だけで終わりということではなく、今何を残したいということが大事だと思います。

(西川座長)

現在のコミュニティ施策の見直しと言うか、視点を組織やシステム、当事者のつながりから作り直したらどうかというお話だったと思います。後ほど、その辺りも含めて、議論していきたいと思います。では、Fさんお願いします。

(F委員)

田辺市PTA連合会の会長をさせていただいていますFと申します。大塔中学校のPTA会長を持たせてもらって、充て職でついでが結構重たい感じですが、よく分からないまま参加させていただいています。自分は旧大塔村、大塔地区で生まれ育って、現状としては昔と大きく変わってないと感じています。子供の数は圧倒的に少なくなりましたが、自治会への参加という点では、周りで入っていない人が分からないほどみんな参加しています。自分の地区では、子供会は全員参加ですが、他の地区では不参加もあると聞いて、徐々に考え方が都会化してきているのかと感じています。田舎では、自治会を含めて地域活動をやるのが当たり前で、自分の地区にある県営住宅や市営住宅では、入居の条件として地域活動への参加を謳っていたと思います。そうした認識で住んでいるからか、積極的かどうかは別としても、それなりに地域の役を担って、地域活動に参加していただいていると思います。一方で、地区の会議に参加しないことはよくある話だと妻から聞いて、ギャップを感じたこともあります。市のクリーン作戦も、開始時間が朝8時からとなっていますが、高齢の方が大半で、時期も夏で暑いから、朝5時半頃から草刈りの音が鳴っていて、早く行こうとすると妻に怒られ、それで8時前にこのこ行くともう終わっているんです。地区の会計をやったこともありますが、共働きで時間に余裕のない現役世代が無理をしてやらなくても、時間に余裕のある人がやるべきというのが妻の感覚で、田舎でずっといた自分の感覚とは違って、その地域に行事に参加してもらって顔を覚えてもらって、自分の子供のことも覚えてもらって、危ないことをしていたら注意してもらおうとか、そういうコミュニティが大事だと思って



います。昔だと、カミナリ親父みたいな人がいて、悪いことをする子供がいたらガツと怒ってくれるというのがあったと思いますが、今は、子供が注意されたことに対して、「ありがとう」ではなくて、「自分の子供に何を言っているのか」というような感じだと思うので、なかなか注意しにくい部分もあると思います。ただ、大塔地区は割とコミュニティが強くて、地域の先生も積極的に参加してもらって地域のこととか教えてくれるつながりがあるので、まだ他の地区よりはいい思っています。田辺市全体で考えたときに、旧田辺のまちなかはどのようなのか、今後どうなっていくのかということに関心があります。

(西川座長)

Fさん下附ですか。

(F委員)

はい。

(西川座長)

以前、下附で6年間お世話になりましたので、気持ちは非常によくわかります。地区の清掃は8時に終わりますよね。自分は職場がBig-Uにあったので、大塔に住まわせていただき、地域の皆さんにはとてもよくしてもらいました。自治会費もご丁寧に先に払っていただいて、後から請求が来るというシステムで、自分も妻も大阪と岡山の間で、ニュータウンの出身なので、面白いなと感じました。大塔地域は、都会化しておらず、旧来の仕組みも今のところ回せている地域ですよ。

(F委員)

ただ、子供神輿は、子供が減っていて、教える人も高齢化で、下の世代に継承できていないので、今後どうなっていくのかという不安はあります。新しいものには、あまり手を出さず、伝統を大事にしていますが、その後を担う人を育てていないという現状があります。笛や太鼓を記録に残しておかないと、誰もいなくなったときにどうするのか、という話をしているところです。

(西川座長)

では、Gさんお願いします。

(G委員)

田辺市老人クラブ連合会のGです。自分は中辺路町栗栖川の方ですが、単位クラブが年々減少していく傾向にあります。中辺路では13の地区があり、老人会として名前はあっても、活動はしていないという老人クラブが多く、活動を定期的にされているのは3つか4つだ

と思います。月1回での活動も入れてこのくらいだと思います。アンケートにもあるように、「なり手がない」という問題がどこでも出ていて、今の会長が退いたらその老人クラブは消滅というのがいくつもあります。Bさんがいる近露も既に老人会はなくなって、世話してくれる人を探す努力はしていますが、なかなか難しいです。今後も、こうした傾向は続いていくと思っていて、自分たちとしてはそのようなところにどのような形で支援が入るのが気になっています。高齢化の中でも何とか続けていくために、社会福祉協議会と話し合っていて、現状、社会福祉協議会が車で他の地域の人を乗せて連れていく形の「きらきらサロン」を運営されていますが、しんどい部分がありますので、市からの支援、具体的には人材派遣をしていかなければ、続けていくことはできないと危惧しています。市では、地域おこし協力隊を導入していると思います。しょっちゅうそこに付くわけにはいかないと思いますが、月1回程度各地域の集会所でやっていくことができないかと思っています。うちは下芝ですが、会館を開放してそこに囲碁ボールのマットをセットしていて、そこで好きなときに好きな人が集まってできるようにしています。地域のおばちゃん達でサークル作ってもらって、今は毎週月曜日に集まって元気にやっているみたいです。そういうことを社会福祉協議会と相談しながら進めています。ただ、一方で家から出るに出られないという人が多くなっていると思います。その家を訪ねて声掛けをしますが、やっぱり家から出ていきたい、みんなと集まりたい、そして話したいという声を聞きます。けれども、話をする人がいない、笑うこともないという状況です。以前は、そういう人達を老人会の定例会に連れて行ってということもやっていましたが、他の地域まで手が回らないので、全体的にそういうシステムを作っておく必要があると思っています。社会福祉協議会も精一杯頑張ってくれていますが、手一杯で、人員を増やすにも経済的に難しいという状況なので、市から何とか援助してもらいたいと思っています。お金がないからできないというのは寂しいと思っていて、お金をかければできることは一杯あるのに、中々それができない、分かっているのにできないというようなことが多々あります。家から出てみんなと話したい、笑いたい、けど今日一言でもしゃべったかなというのが現状です。一日に1回は笑うようにしましょうと言いますが、中々笑う機会も無さそうです。そのためには、移動手段も必要で、中辺路も限界集落に近づいている地域も何か所かありますので、そうしたところへの手助けも必要だと考えています。コミュニケーションすら取れていない中で、今後、どのように関わっていくのかということは、市としても大きな課題だと思いますので、今後とも検討していただきたいと思います。

(西川座長)

Gさんも結構声掛けをされていて、ずっとしゃべってないとかいう方もいらっしゃるという話でしたが、結構な頻度で訪問されているんですか。

(G委員)

結構な頻度というわけではないですが、ある程度のところには、1週間に1度は、まわらなければならないようになっていきます。声掛けする中では、今度紀南病院へ行きたいというようなことも言われるので、仕方ないと思って連れて行っていますが、もしものことを思うと怖い部分もあります。あまり、公に言うと言怒られるかもしれませんが。

(西川座長)

善意でやっている範囲であれば問題はないと思います。

(G委員)

声掛けする中では、「今日は初めてしゃべった」と言う人もいます。「何か面白い話できたらええんやけど、ワシもようせんから」と言えば、笑ってくれます。そんなところに市や社会福祉協議会が充実した体制を持つことができればとは思っています。

(西川座長)

地域の実情をお話いただいたかと思います。では、最後にHさんお願いします。

(H委員)

田辺市女性会議の方の副会長をさせてもらってるHと申します。よろしくお願ひします。私も13年前に鮎川の上の山の中の平瀬と言うところで住まわせてもらって、田辺で生活する運びとなりましたが、山の中へ来たなと思ひました。元々は和歌山市内の出身ですが、仕事でだんじりで有名な岸和田市に住んでいました。今年、だんじりを曳くそうです。さっきのFさんとは、地域の郵便局でお世話になって、公私共々知り合ひなんです。いいところに住まわせてもらったなという思ひがありますが、やはり鮎川と平瀬は違ひって、富里と言っても地域でいろいろと違ひがあります。まず、女性会のことを言わせてもらうと、田辺市には5つの支部があり、私は大塔支部ですが、中辺路や龍神、本宮とあって、どこの地域も会員さんが減ってきています。会はあるても、活動できないという状態になりつつあります。食推という会にも入っていますが、そこも同じような状態で、やっぱり会員不足というか、若い人が中々入ってきてもらいにくいんですよ。活動内容も平日にすることが多いので、難しいとは思ひています。せめて土曜日にしたら誰か来てくれるかなと思ひてやりますが、会には来てくれても知名度を上げるという活動が難しいと感じています。自分も役を持たせてもらって、女性会って何をするとところか、どんなことしたらいいのかということをお身に問ひ直す機会もありますが、中々そういうことを話できるっていう場が少ないと思ひています。やっぱり皆さん集まって、視察研修に行くとかそういうのをすごく楽しみにしているんで、そういう活動の中から、ちょっとでもみんなが集まることの意義というのでしょうか、そして、女性の地位向上という大げさですが、そういうところにつなげていきたいと思ひています。今回の集まりを見ると、女性が半分、男性が半分で、いいバランスだなと感じて

います。先日、ある会へ行くと、21人中3人だけが女性という構成で、共同募金の会でしたが、少し寂しさを感じました。森元首相の発言にあったようなことを言う男性もいるかと思いますが、女性の意見を大事にしてくれる会議が増えれば、田辺市も変わっていくかなと思っています。鮎川小学校のCS会議に地域の関係で入らせてもらって、活動させてもらっていて、全て充て職から始まりましたが、いい勉強させてもらってるなと思っています。地域先生ということで、子供達のところへ行かせてもらって、楽しい時間を過ごさせてもらっています。普段私が住んでる平瀬という地域は子供がいなくて、子供の声が一切聞こえない地域ですが、鮎川まで出ていくと、女性会では、ふれあいスクールというところで、子供達と年1回ですが、囲碁ボールなど色んな活動をして、食推の関係では、子供達と色んなもの作るということをやっています。女性会の活動もできるだけアピールできるように、公民館も協力してくれて、広報に載せてもらっています。私は、たまたま夫が地域の障害者施設で働かせてもらってという立場で来たので、地域の人としては、何者かがはっきりした状態で来ているので、快く受け入れてくれましたが、結構他から入ってきている人も多く、よくない噂を聞くような人の場合、遮断してしまう人も地域の中にいて、少し前までは、その人達の仲間が多くいて、牛耳っているとまではいきませんが、仲良しクラブのような会がありました。私は何のしがらみも無い立場でしたので、これ幸いと役もまわってきたので、何年かはその引継ぎで、その仲間の人達と楽しいことをさせていただきながら、会を運営していましたが、高齢化で人も減っていたので、一度解散して、新しい人が入れるように再構築したいという思いがありましたが、「私一人でも残ってやる」という人も出てきて、今は休止状態になっています。私は、もう一度再構築してみんなに入ってもらって、運動やゲームを楽しむ会を作りたいと思っていましたが、やはり狭い地域ですので、抑えられてしまいました。私も押し切ってそこまでできなかったもので、少し後悔はしています。そういう現状の中で、何ができるかということを考えています。お父さんが区の代表をさせてもらっていますので、区の会議を月1回したり、平瀬だよりというのを作って現状を皆さんにお知らせしたり、お手伝いさせてもらっています。同じような年齢の人がいますので、その人達と協力しながら、そこに皆さんついてきてくれているという状態で、地域としては色んな活動ができていますと感じています。

(西川座長)

三川、平瀬にとって、施設の力というのはすごい大事ですよ。

(H委員)

そうですね。施設も協力してくれて、月2回お買い物バスを出してくれて、地域の人も喜んでます。

(西川座長)

ありがとうございました。次のテーマに行きながら皆さんと議論していきたいと思いますが、せっかくなので、さっき少し話しましたが、田辺では鮎川の下附で6年半お世話になりました、今は紀三井寺に住んでいます。ついこの間までは、海南の日方に和歌山大学の宿舎がありまして、そこに6年間住んで、2回自治会長やらせていただきました。こういう仕事もやっていますので、自治会長を楽しんでみようと思ってやってみました。田辺と変わらないかもしれませんが、海南は、連合自治会があって、その下に地区の自治会があるという構成になっています。連絡は郵便でご丁寧に来るので、80円もつたいないなと思ったり、会議時間が木曜日の午後7時からで、午後9時くらいまで仕事したいけど、外せない会議でどうしたものかという思いと現実のギャップに悩んだりしました。中々、自治会長として仕事はできませんでしたが、宿舎のイベントだけは面白くしようと思って、大学官舎がなくなることになったので、お別れ会を企画しました。ですが、それも実はコロナで中止になってしまいました。皆さんのお話もお伺いさせていただいて、これから次のテーマへとつなげていきたいと思います。自分が聞く限りは5つくらい論点あるのかなと思ってこれから言いますが、皆さんは自由にご発言いただければと思います。一つ目が、地縁コミュニティの再構築と、テーマコミュニティとの連携がポイントかと思って聞かせてもらいました。田辺市の街なかだと商工会議所青年部があり、他の地域と比べても元気があるように思います。二つ目は、今後5年間のことを考える後期計画ということ踏まえて、やはりコロナの関係は、どのような論点を出すかは別として、Aさんもおっしゃっていただいた、コロナの警戒心によって地域のコミュニティ形成を妨げる現実があるとすれば、何かしらの配慮は必要かなというところに落ち着くのだと思いますが、コロナ対応といいますか、アフターコロナ、ウィズコロナということも大きな論点かと思いました。三つ目が世代間交流ということで、EさんやAさんのお話を聞いていてと思いますが、ベテランの皆さんの交流というか、まさに災害時に「避難しない」という高齢者の気持ちが、行政の言葉では動かず、子供からの言葉で変わっていくという話があって、高知県黒潮町の事例ですが、世代間交流をうまくつなげることができないかと思っています。今、社会教育委員もやっています、引退しないといけないと思いつつながら、13年目を迎える古参になってしまいました。田辺市の学社融合は、地域によって強弱はあれども、全国的に非常に熱心なところの代表格に入る地域なので、学校教育や社会教育の力と地域コミュニティが融合できるかなと思いました。四つ目が、Gさんのお話にありましたように、厳しい中で、社協さんと組まれて、サロン活動をされているということですが、既存組織と連携して新たなつながりを立ち上げたときには、人的・財政的な支援が必要になると思いますので、旧来の支援だけでなく、更なる支援をセットでやるということも一つあるのかと思いました。五つ目は、これはカッコ付きですが、Hさんの話を聞いて、新組織を作るんだったら作ったらいいし、作れないところは連携ぐらいに留めるという、何かしらの新組織論はあるのかと思いました。理想を描いていきたいとは思いますが、現実的な部分を考慮すると、この5つが私なりの論点ということでお示しさせていただきます。先に示してよかったのか分かりませんが、皆さんの意見がそれぞれあ

まりにも面白かったので、先に出してしまいました。この5つはあくまでも私の意見として、とりあえず忘れていただいて、理想の地域コミュニティの形といたしますか、先ほどの話も踏まえて、こういうことだったらうまくいくという考えがあれば、お話をいただきたいと思います。Gさんから支援があればというお話がありましたが、逆に言えば思いを持っている人は地域の中にいるわけで、何らかの支援があれば動くものがあるということは、計画に入れていきたいですね。

(G委員)

中辺路でも六つか七つくらいできましたが、今続いているのは二つくらいです。

(西川座長)

担い手や財政的なことがあって、減ったということですか。

(G委員)

最初に作るときの仕組みをちゃんと説明して、計画的な視点もそこにしないといけないのですが、それが社会福祉協議会の責任と言われるのはかわいそうだと思います。立ち上げの際には、自分たちも一緒になって立ち上げましたが、各地域で特質があるので、思いどおりにはいかず、最初に始めた人にすべて負担がかかり、潰れてしまいました。

(西川座長)

作るなら負担を分け合う必要がありますね。

(G委員)

うまく分散しながら、ちょっといい加減にやるくらいでもいいと思っています。

(西川座長)

そうですね。いい塩梅、よい加減とでもいいですか。

(G委員)

そういった形で、作るときの進め方がまずいなと思いました。今度、後見人の話も出てきていますが、そのときはそのときでワーワーと言いますが、ちゃんとした系統的な施策になっていないと感じています。こういうのが発表されて、促進するという言葉がありますが、どのような支援を具体的にしてくれるのかがあまり出てきていないと思っています。文書を読むと、いいこと言ってくれているようになりますが、具体的に何をしてくれるのかということまで、踏み込んでいってもらいたいと思います。

(2) 理想の地域コミュニティ像について

(西川座長)

口火を切っていただきましたが、次の理想の話をしていただこうかと思えます。では、先ほどと同じ順番で、Aさんから理想の地域コミュニティ像について、お願いします。

(A委員)

子供も大人も楽しく過ごせる地域が理想です。芳養の町内会長を3期目やっています。世代交代はすごく分かりますが、若い人はみんな働いていて、なかなか動いてもらえないので、引き継いでいくのが難しいと思っています。会議の日程もこっちで決めてLINEで流すので、自分ばかりやとか言われますが、そんなにやり方でないと集まることも難しい状況です。現状、月1回か2回は役員で集まるようにしています。750軒のうち、400軒くらいが現状の町内会員です。アパートも3つくらいあるんですが、アパートの人は誰も町内会入ってくれません。最初は、回覧も回していましたが、町内会に入っていないでも回ってくるなら、町内会入らなくてもいいみたいな噂が流れたので、私が町内会長になってから、アパートの管理人さんに依頼に回ったんですが、それでも誰も町内会費を出してくれないので、今は町内会員しか入れないようにしました。必要であれば、公民館に各自取りに来てもらうようにしています。個人会員も40人くらいあって、その分は私一人で配っています。町内会費もコロナがあって6,000円から4,800円に下げました。2年前まで、私が会長になってから、地域の交流のために日帰り旅行していて、年に80人くらい、バス2台貸しきって行くということをしていましたが、それが一番の交流になっていて、若い人も寄ってくれて、ちょうどよかったんですが、コロナで今はやめています。さっきHさんが言ったように、私も女性の時代だと思いました。前はこの審議会も女性が3人でしたが、今は10人ほど入っていて、田辺市もよくなってきたと思います。女性をもっと活動したらいいと思っています。芳養は育友会長も子供会長もみんな女性で、私も町内会長をやってよかったなとすごく思いますし、これから先も関わっていきたくと思っています。昔、学社融合で、地域にべっこうしいのおばちゃん3人がいたらその地域は栄えると聞きました。子供が地域に世話になり、仕事を辞めたこともあったので私が立ち上がろうと思って、それがご縁で、現在まで15年やってきました。地域が元気だと、子供も元気になります。でも、父兄は働いているから、元気にならないんですよ。29日に地区懇談会があるので、お母さん方、お父さん方に町内会に要望がないか聞いてみようと思っています。ただ、一番聞かないといけないその世代の人が少ないんですよ。地域のためには、女性が活躍することが大切だと思います。

(西川座長)

ちなみに社会教育委員会議は7割以上が女性です。父兄に元気がないという話もありましたが、現役世代は仕事をもってると、中々会いにくいというのがありますが、例えば会議

をWEBで参加してもいいとか、そんな制度もありますか。

(A委員)

会議はLINEで通知しています。

(西川座長)

行けないとなったときはどうされるんですか。

(A委員)

よくありますが、仕方ないですよ。

(西川座長)

そう言ってくれる会長さんであればいいですが、そうでない方もいらっしゃるかと思います。その辺り、現役世代とのギャップがあるように思います。現役世代としては、参加できないのは申し訳ないので、引き受けられないという部分もあるんですが、なにかうまい方策はないでしょうか。オンラインで参加してもいいとなれば、職場から参加できるというものもあると思いますが。

(A委員)

私はLINEでいろいろ連絡しますが、顔を合わせて話をするのが一番だと思います。

(C委員)

オンラインで顔が見える状態でやりたいと思いますが、会議室にネット環境が整っていないことが多く、なかなかできないというのが現状です。

(A委員)

人間、顔の見える関係が一番だと思います。それでこそ、言いたいことも言えると思います。

(C委員)

リモートで、画面でその人を映して、一緒にいる形ができれば、顔も見えるので、そんな形がとれればと思います。

(西川座長)

では、Bさんお願いします。



(B委員)

移住してきて、田舎の人間関係でいろいろ感動したことがあります。知り合いだからだと思いますが、80歳くらいでもお互いに「ちゃん」付けや下の名前で気安く呼び合っていて、他の地域も同じなんでしょうか。あと、私が最初に貸してもらった家が、高齢の方が亡くなった後の家で、その方は高齢の一人暮らしで、網膜の病気で目が見えなくなっていたんですが、近所の方が買い物してあげていたという話も聞いて、そういうところがすごいと思いました。190世帯くらいの地域なので、本当に皆知り合いで、会えばニコツとしてくれるという感じのところにも感動しています。家庭菜園をしていると、話しかけてくれて、どのようにするのがいいということも教えてくれます。地元同士がコミュニティとしてまとまっているのかは、少し難しい問題もあるのだと思いますが、現状で感じるいいところは、そういうところだと思います。

(西川座長)

続いて、Cさんいかがですか。

(C委員)

地縁組織も残りつつ、とはいえ、旧来の何か分からないけど入らないといけない組織ではなく、みんなが入る必要のある、目的を持った組織で、入る人もその必要性を理解して入る、あるいは、入った方がいいと思える理由があって地縁組織に関わるという形がいいと思っています。そして、そこにテーマ型の組織の皆さんも地縁組織の動きに関わってもらい、テーマ型組織の活動にも地縁組織の皆さんが協力するという、双方の力を出し合って地域づくりができればいいと思います。最初に、防災を軸に動いている地域があって、という話がありましたが、防災のことで動き始めている、軸になる中心的な人が元気に動いていると、周りがついてきて、活気づいて有志の集団ができて、それがその地区では自主防災会として動いています。そういった動きがあると町内会も元気になって、単に防災に限らず、サロン活動をやったり、筋トレをする会や朝の体操をする会ができたり、活動が徐々に発生して、そこに集まりができてきます。1つの地区で起こった活動でも広がって行って、つながりももっと増えていく、何かをすれば集まる人も増えてくる、そういう流れになっていると思います。そういった意味でも、地縁組織は無くなってはいけないと思います。防災を軸にして考えていくと、防災のことがあるから町内会に関わっておこう、町内会でこんな取組しているから関わっておこう、そういう動きになっていくかと思っています。地縁組織の取組でも、花を植えるなら花つぼみさん、防災のことならWRB（和歌山レスキューサポートバイクネットワーク）さん、というようにイベントや学習会にテーマ型で活動されている専門の方にもきてもらって、関わって、という力を出し合ってる感じが今できているところもありますので、そんな形が全ての地域でできればいいと思います。

(西川座長)

今、お話を聞いてて、Eさんのずっと目を通しながら、リーダー育成はシステム化した方がいいのかなということを考えていました。

(E委員)

田辺市全体を隅々まで、できるだけ現状把握して、全体を通して施策を考えるというやり方が必要だと思います。

(西川座長)

では、Dさんお願いします。

(D委員)

考えることが多い、広いテーマだと思います。地縁コミュニティと言えば自治会、テーマ型コミュニティと言えば手芸クラブのような集まりだと思いますが、言い換えれば「やらねばいけないことのコミュニティ」と「やりたいことで集まっているコミュニティ」のようなニュアンスがあると思っています。ただ、地縁コミュニティのやらなければいけないことの集まりの中でも、ゲートボールの集まりで「ちょっとやろうか」というような、やりたいことを皆でやろうとする、シンプルな、集まりたくなるような気持ちになるようなこと、やりたいことを大事にしていくことが必要だと思っています。結局、コミュニティとは、人が集まるということだと思いますので、人が集まるきっかけ、やりたい、楽しそうということ、どう作っていけるかということがとても大事になってくるかと思っています。とはいえ、今までの歴史や経緯、人付き合いのこともあると思うので、難しいところだと思います。私は、1つの場所にずっといなくて、色んなところでのりくりやってきた側なのでと思いますが、地域やコミュニティを大事にしようとなったときに、純粋なものを目指す方向、例えば、地域の歴史が大事だというような方向に力が働く傾向があると思っています。ある程度、目的や必要性を詰めていくことはすごく大事ですが、詰めた後に広げる作業もとても大事で、詰めてそれぞれ地域の大事さが分かった上で、隣の地域と交流する、極端な話だと合併する、みたいなことが必要だと思っています。あまりまだ理解していませんが、気になっている言葉で、「協異体(きょういたい)」という言葉があります。日本人は、あまりピンとこないと思いますが、海外の色んな人種が集まっている国は、お互い文化や背景が異なる人間が入って、一つのコミュニティを作るのが普通です。コミュニティや地域の交流においては、協異体的な発想で、お互い違うけど一緒にやっというふうな、「お互い違う」ことを分かり合おうとすることが必要になると思います。介護とかで外国人実習生が来るようになってくると、皆さんの身近なところで外国の方と接する機会が増えると思いますが、そういうときに「分からないから関わらない」となってしまうと、いつまでたっても交わらなくなってしまいます。全てを理解する必要はないと思いますが、せめて扉を閉じないで欲しいと

は思います。お互い違う、異なることを分かった上での交流を図れるかというのは、今後のコミュニティで出てくると思っていますので、そういう目線は必要だと思います。また、全然話は変わりますが、アンケート結果で、SNSはあまり必要とじゃないという話があったと思いますが、これについては同感です。前半の議論でSNSでの情報発信が必要という話はありませんでしたが、とりあえず情報発信をやるというのは、やめといたほうが良いと思っています。何かのイベントをSNSで発信するというのは、無茶苦茶大変なので、「とりあえず」で手を出すものではないと思っています。SNSを皆さんの中に向けて、内向きにやる分にはとても良いと思いますが、わざわざ必要がないのに外向きに出す必要はないと思っています。先ほどLINEを使うという話があって、それは会員のために使っているのととても良いと思いましたが、インスタグラムみたいに見てもらうためにSNSを使うとなると、疲れると思うので、積極的なSNSの活用ということはあまり言わなくても良いと思います。本当に必要であればやるべきだと思いますが、大きな空に向かってボールを投げているようなもので、いつまでも届いている感じがせず、疲れることの方が大きいと思うので、とりあえずやることはやめた方が良くと思います。お互いが気持ちよくなるため、「こんな風にあさがお咲いてたよ」とか、「ひまわりの季節だね」みたいことを、お互いコミュニティの中で気持ちよくできるようにSNS使うのは大賛成なので、そういうときはどんどん使っていたら良いと思います。

(西川座長)

組織内の連携強化のために活用するという視点ですね。

(D委員)

スマホは持っている人がかなり多くなってきていて、自分の母も孫ができたなら、LINEを使うようになりました。そういうことって多分あると思います。例えば、近くに誰もいなくて、1日しゃべることがないというとき、便利なアプリもあるので、みんな1日の中で特定の時間帯はこのアプリを起動するというようにしておく、とりあえず何となく話ができる環境ができると思います。通話に特化したアプリもあって、「クラブハウス」というアプリも声がすごくクリアに聞こえるので、そういったのをやっておいてはどうかと思います。コロナの話にも関わってきますが、コロナのせいで集まれないうちに、コミュニティがどんどん先細るくらいなら、今のうちにできることを少しでもやっておいて、そういったところでこそ、ITを使うべきだと思います。

(西川座長)

確かに、お孫さんと話すのに使い始めるというのはあると思います。学生に聞くと、FACEBOOKはやっていない、LINEは古いと言われるので、そんな時代なのかと思ってしまいます。では、Eさんお願いします。

(E委員)

日進月歩で進んで行くので、我々にはなかなかついていくのは難しいですが、そういつても仕方ないので、どのようにしてうまく活用していくかが大事かと思います。今、Cさんと目が合いましたが、先ほどCさんがおっしゃられていたことと同じなんです。とにかく日進月歩でどんどん情勢が変わっていく中で、それに応じた考え方、やり方っていうのが必要だと思います。従来の地縁的なものというのは、時代の変化についていけない部分があるので、違う目線から、目標やテーマ、そういったものを、ちゃんと決まったグループの考え方もひっくるめながら、お互いにメリット、デメリットがあると思うので、そういったものをどんどん進めていく必要があると思います。自治会の加入率も意識しながら、あまり気にしすぎないで、目的を持った小地域のコミュニティを連携してお互いに「どうしていこうか」とやっていく方が理にかなっていると思います。都会では、自治会はほとんど機能していないとされていて、田舎へ行けば行くほどお互いに共存していかないと成り立っていかないと、かろうじてお互いもたれ合って生きている、そういう現実だと思います。また、Gさんから老人会の話がありましたが、私も老人会で、コニタンのお父さんをよく知っていて、一生懸命されていましたが、昨年、会長を辞められました。そのときに挨拶に来てくれていましたが、寂しいなと思いました。老人会入ってもらうのも中々難しいと聞いたことがあって、上秋津はみかんや梅など農業が盛んで、高齢者もゆとりが無くて、それどころではないと断られるそうです。他にもいろいろとある中で辞められたわけですが、寂しいなと思いました。時代の流れというものもあると思いますが、また違った形で、お互いのコミュニティを白紙にした状態で構築できるようなことを、考え方として持つことが必要かなと思います。もう一つ現状で寂しいことがあって、私は畑もやっているんですが、周辺でマンションが建って行って、畑の周りがマンションで囲まれてしまいました。山手には旧家があり、その辺りの人は開放的でいつも挨拶してくれますが、マンションに住んでいる人はそうではなくて、防犯カメラもあって、マンションに入ったら出てきてもらえない。自治会でも民生委員でも、インターホン越しでお断りされる状況で、水と油の関係ではないですが、共同することが難しい社会になってきていると感じています。こういった社会の中で、自治会や民生委員がどのように対応していくのかは、一つの大きな課題だと思います。田舎の山沿いの家では、気楽に話ができますが、新しい家では、事情も含めて説明して日程も了承を得て、そこで初めて会えるという状況です。コミュニケーションの取り方から大きな違いがあり、その辺が課題としてあると感じています。それと、地域の経済力というか、生活力が低下すると、地域コミュニティの力が下がってくる要因になると考えています。子供や女性の貧困にコロナが追い打ちをしている状況で、コミュニティ以前の問題をどうするかという部分もあると思っています。子供が3日間何も食べてない、子供が学校の門前で座り込んでいたということがいろいろとあって、民生委員としてはそういう子供を見つけて何とか支えるよう取り組んでいますが、そういったことが十分に満たされていないと、健全なコミュニティはできないと考

えています。今の新しい家は、建物の中で虐待が起きても外からは全く分かりません。我々は赤ちゃん訪問をさせてもらって、虐待が無いかということも含めて、対応しています。いろいろと限界はありますが、今の社会が昔と異なり、コミュニケーションをとること自体が困難な時代になっていると感じています。また、そういう人たちは、地域のために何かするという考えがないと思うので、困ったときは地域でお互いに助け合うことを理解してもらい、ところから始める必要があると考えています。それともう一点、今、音楽の先生といろんなところをまわらせてもらって、去年、一昨年が、24回、老人クラブやボランティアで行かせてもらいました。そういう活動もしていますので、もし、コロナが落ち着いて声を掛けていただければ遊びに行かせてもらいたいと思います。よろしくお願いします。

(B委員)

すみません。私は移住してきたのであまり分からないのですが、田辺で3日間食べていない子供がいる、そういう家庭があるということですか。

(E委員)

いまどきのことです。今の時代、なかなか外から見たときにそういう状態は想像できないと思いますが、あることなんです。我々が一番気を付けていることですが、虐待によって赤ちゃんや子供が死んでしまうことをいつも懸念しながら活動しています。ただ、それに近いことっていっぱいあると思っていて、地域にも、お医者さんにも気を付けて見てもらうようにしています。我々も校庭から見ていて、おかしいなと思ったら校長先生のところに行き、話をさせてもらいます。ただ、学校は、正直に全てを一度に出すことはなくて、何回も何回もしつこいくらいにして、ようやく辿り着けるような状態です。我々、民生委員はそういった子供の見守りということも一生懸命やっています。

(西川座長)

進行の不利で、予定の終了時間を過ぎてしまいました。差し支えなければ30分ほど延長させていただきたいと思います。もし、他に予定があるという方は静かに退席いただいても構いませんので、もう少しお付き合いいただければと思います。

たしかに、昔は生産基盤の中心が第1次産業で、繋がらざるをえないということで、地域コミュニティが機能していたと思います。ほかの先生が言っていましたが、地域コミュニティは「嫌いなやつとどう仲良く暮らすか」みたいなことで、水の話とかいろいろあるなかで、生産基盤がその地域にあって繋がらざるをえないから地域力があつたという話で、今は、自分みたいなサラリーマンもそうですが、給料もらって生活している人からすれば、職場とどれだけ近いかみたいな話になって、別に地域に依存しなくても生活できるとなると地域コミュニティ力も必然的に下がっていく、そういう中でどうしていくのかという話を考えていく必要があります。前提として歴史的なもののある程度押さえておかないと、大事だか

ら大事といわれても、なかなか理解を得られないので、そういう意味では「地域の重要性」という話をEさんからいただきましたが、防災や防犯、学校、子供といった自分ごとに繋がらうなものから関連させていくというのは一つ方法かと思いました。

では、Fさんお願いします。

(F委員)

田舎の方が、地域コミュニティ的には理想に近いのかなと思いますが、あと10年先20年先を考えると人が減って、誰が生き残っているのかということも思います。自分もそれなりの年齢になってきましたが、周りを見ると自分より若い人があまりいなくて、さらに言うと、自分の子供も4人いますが、将来ここに住むというイメージが湧かなくて、都会に出て行って、どこかで生活基盤を築いていくんだらうなと思っています。自分も大阪に4年半いて、Uターンで帰ってきましたが、同世代の知り合いは、過半数は出ていったきりで戻ってきていないと思います。自分たちの地区では、コミュニティ云々の前に、過疎化問題をどうにかしなければいけないと考えています。集まりたいという会と集まらなければならない会がありますが、集まらなければならない方而言えば、区の総会がそうで、昔からのしきたりのようなもので何とか集まってもらえるように集まってもらった人全員に名前を書いてもらって福引をしています。それなりには集まりますが、会議開始時点では、委任状と来た人数で過半数に達していないこともあります。そういうことしていても集まりかねるという現状です。楽しいことという、盆野球やバレーボールがありますが、これも決まった人しか集まらないような状況です。今後、考えていかなければならないのは、これだけ人が減ってきたときに、違う地区から引っ越されてきた方とどれだけコミュニケーションとれるか、所属するだけではなくて、いろいろな取組にも参加していただけるようにすることが大切だと思います。田舎というのは本当に独特で、知らない人を受け付けられない体質がどうしても強いので、それを払拭していく必要があると思います。また、今、理想になっても10年20年先に、その理想が終わってしまうのであれば意味がないので、どうすればよいかと考えています。

(西川座長)

では、Gさんお願いします。

(G委員)

とりあえず今、地域では集まりやすい場所を提供することに徹しています。気楽に集まって、1ゲーム済んだ後、ちょっとお菓子食べて次のゲームまで話に花を咲かせて、というような場所が各地域に作れることが一番かなと思っています。自分のところだけというわけではないですが、下芝でそういう場所ができたので、そういう場所を各地域になんとかつくることができなにかと思って、社会福祉協議会と相談しながら取り組んでいます。それが理

想とは言えませんが、そういう形で少しでも行きやすい地域のコミュニティができればと思います。そうした取組で、老人会の新規会員も少しだけ増えました。先ほどの話にもありましたが、今の状態が10年20年と続くわけではないので、今、80代の人を中心なので、60代や70代の人たちに声掛けをしていこうとしています。また、もう一つ先ほど言われていた話で、丸一日誰とも話すことがない人たちにタブレット端末を配布して、話したかったら話すことができる環境をつくるというのも面白いと思いました。お金はかかると思いますが、これからはそういう時代になっていくと思います。もう一つ、理想という用語弊があるかもしれませんが、創り上げてきた組織に対する一定の人的支援と経済的支援をいただきたいと思います。補助金は、サロン活動に対して出ますが、わずかな額です。何かやる時にはお菓子を買いますが、お菓子代は補助対象外なので、使いやすいようにしてもらいたいと思います。サロンで講師を呼んで何かするというのはなかなかできないので、ある程度の猶予は認めてもらえれば使いやすいのにはと思います。実際使ってみて、全て領収書やら必要で、なければその分補助金を返還しなければならないという形になるので、もうちょっと使いやすい補助金をお願いしたいと思います。愚痴ばかり言ってすみません。

(B委員)

音声入力でいろいろできる端末もあり、画面で顔を見ながら決まった人と話せる仕組みが既にできているので、活用してみてもどうでしょうか。ただ、ネット環境の整備と、インターネットの月額料金もかかるので、その部分がネックになるかもしれません。

(D委員)

素人考えで、電波法とか分かりませんが、トランシーバーの回線を利用して、インターネット回線を使わなくてもできることが何かあるのではないのでしょうか。

(G委員)

無料で配るくらいでないと難しい。

(D委員)

インターネットだと配った後にずっとお金がかかってしまいますね。

(A委員)

私、芳養で「いきいきクラブ」というのを立ち上げていて、ビン・カン、ペットボトルを集めているんですが、それが結構いいお金になります。月に3,000円程入るので、補助金をもらわなくても、そのお金でお茶やコーヒー買って、かれこれ3～4年続いています。

(G委員)

単価がものすごく下がっていて、昔はアルミ缶1キロ十数円だったのが、今は単価3円になってしまいました。老人会もそのお金を当てにしていますが、本当に安くなってしまって困っています。

(西川座長)

では、最後にHさんお願いします。

(H委員)

福引と餅巻きという地域の文化の恩恵を受けて、冷凍庫にはいっぱいお餅があります。ただ、コロナ禍でだんだん減ってきました。平瀬でも、富里まつりというのがあり、年に1度、毎年12月3日に実施しています。富里まつりでは、お宮さんに奉納するため、地域で餅つきをしていて、地域の女性が集まって餅をついて、男性は後で袋詰めしにくるというのがありますが、段々下火になってきていて、コロナ禍で今年もできないと思います。2年間実施できていませんが、地域で集まってやるような伝統の行事は、すごく大事だと思います。平瀬には、独特な盆踊りがあって、毎年8月14日の夜にやっていますが、それもできていません。ここで、福引をやっている、地域の提案でやることになったみたいですが、人を呼び集める何か手段として福引をやるというのはいい考えだと思っています。大塔の女性会もコロナ禍で総会のときに福引しました。いずれにしても地域の伝統は大切にしないといけないと思っています。先日、私も、「田辺らしい住民自治をみんなで考える勉強会」に参加してもらいまして、お金儲けという話がすごく印象に残っています。それとは別に、もう3年前になりますが、地域にブドウ園があり、1年に1度、平瀬にたくさん人が来てくれる日があったので、地域のみんなで平瀬フェアというのを立ち上げました。コロナがあったので、実質的には1回しかできていなくて、お金を儲けるところまではいきませんが、地域が一つにまとまるきっかけになって、地域の共通の話題になるといいなと思っています。

(西川座長)

皆さんありがとうございました。たくさんのお話をいただきましたが、最終のとりまとめは、事務局と座長に一任させてもらってよろしいでしょうか。それに対してのご意見は全体会の際にいただければと思います。

先ほどのテーマで五つポイントをお示しさせていただきましたが、このテーマでも同様にお示しできればと思います。

先ほどからの続きで、六つ目が、リーダーの発掘は幅広にやるということは、明日からできる大事なことだと思いますので、6番目に置きたいと思います。

七つ目に、子どもや防災といった個別テーマで、自分自身が直面する課題というところからひっかけていくというのは一つ大きなきっかけにはなるのかなと思うので7番目に個別テーマから繋がるということを置きたいと思います。



八つ目が、身近な繋がりから集まる、集まりやすい場所から始めるというのは、そこから地域コミュニティ力が始まっていくので、自治会連合会との話も総計的には大事ですが、3人寄ればなんとやら、ということも繋がりとするならば、田辺市の各地区、各領域でやっていくことも手段の一つと言えると思います。身近な繋がりから集まる、始めるということが大事かと思しますので、これを8番目にします。

9番目が、先ほど「何かあればいきます」とEさんからGさんにメッセージがありました。関係人口について市長ともお話しする中で、外からだけでなく、地域内関係人口もあっていいと思っています。以前も、本宮や中辺路が被災して、旧田辺から本宮や中辺路の支援に行くということがあったと思います。いろいろ課題はあったと思いますが、同じ田辺市という地域内で支援する体制がとれたということからすれば、「自分たちの地域は自分たちで」というのが自治の原則ですが、困ったことが起こったときは隣の大きなところから手伝ってもらい、助けに来てもらうということがあっていいと思っています。そうしたつながり、地域内関係人口も大切かと思しますので、9番目にしたいと思っています。

10番目に、先ほどの人の繋がりからでいうと、新しいコミュニケーションのスタイルとしてICTを活用するという方向性があると思います。田辺市はタブレット購入に対する補助はないと思いますが、印南町では、デジタルタウンを目指すということで、全額補助ではないですが、タブレットの購入に対する補助金があり、いずれは紙媒体の広報を辞めようという部分も含めて進めていた話だったと思います。田辺市でも公民館事業でオンラインカラオケ大会をやったという話を聞いたこともありますので、ICT事業を使ったことも追いついていいのかなと10番目で思いました。

最後、11番目ですね。持続可能性を求めると、お金を稼ぐ、財源確保が必要になります。先ほど、秋津野の話が出ましたが、みんなのために使うものに大して財源を拠出して、稼いだ収入も地域に還元して、という考え方ですか、今日は出ませんでした。日本の面白い考え方で「いきがい」というのがあって、皆さんご存知だと思いますが、海外では「いきがい」という考え方があまり無いようで、日本独特のものみたいです。そういう「いきがい」の価値を新しい地域コミュニティに引っ掛けられたらいいかなと思っています。

これまでまとめてきた11のポイントを74ページの地域コミュニティに全部盛り込むとすごいボリュームになりそうですが、できる限りシンプルな形で要素を盛り込む形で構築させていただきたいと思っています。

(H委員)

地域コミュニティの文章ですが、一文が長く、読点の多い、読みづらい文章なので、短文になるようお願いします。

(西川座長)

できるだけ短文となるようまとめたいと思います。他に表現等々で気になるところはご

ございませんか。何かしら目標設定を行っても面白いかと思いますが、進捗管理が大変でしょうか。

(B委員)

自治会の加入率がK P Iですか。

(西川座長)

地方創生と同様に、増加というより、減少を止めるという観点でのK P Iかと思います。

(C委員)

I C Tを活用した地域づくりをする場合に、例えば「みんなでまちづくり補助金」を地域のグループで申請して、タブレット買うことはできないのでしょうか。

(事務局)

現行の補助要綱では、備品購入、いわゆる物を買うことに対する補助は基本的に対象外となりますので、物品を購入して配布するということは、できない形になっています。

(西川座長)

その他、いかがでしょうか。

(B委員)

I C Tの普及を検討することも総合計画へ載せていただきたいと思います。他の自治体でもD X戦略を作っていると思います。

(D委員)

最後の方に自治体D Xを推進するという内容があったように思います。

(西川座長)

その他、特になければこれもちまして、地域コミュニティ再構築に係る分科会を閉会させていただきます。皆さんとは全体会議でもお会いしますので、何かあればその際、ご発言いただければと思います。一旦、分科会については、座長と事務局で皆さんの思いをまとめさせてもらいたいと思いますので、またいろいろとご支援をお願いします。ありがとうございました。

#### 4. 閉会